

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

AGU News



AGUニュース第57号 [2011年6月~7月号]

2011

No. **57** 青山学院大学

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
URL: <http://www.aoyama.ac.jp>

院長・学長からのメッセージ

なすべきこと、
できることを見極めて、
前に進んでいきましょう

特集

在学生と卒業生が語る

教師という「生き方」

TOPICS 2011年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験結果
パツハ・コレギウム・ジャパン レクチャーコンサート

報告・お知らせ 2011年度 大学執行部、学部長・研究科長紹介
2010年度 学生表彰、体育会優秀団体・選手表彰

誌上公開講座 Aogaku Lecture ①
青年文化論 ―青年期・学生文化・大学の変容と現在―

INFORMATION 2011年度 ペアレンツウィークエンドのお知らせ
教育課程移行の延期についての説明会 開催報告
2011年度 前期の授業期間について
2011年度 オープンキャンパスについて



相模原キャンパス

青山学院は「地の塩、世の光」の精神に通ずる、 “行動”と“祈り”で震災に向き合います



青山学院 院長
山北 宣久

震災の復興に向けた活動が日本中で進められています。本学院でもさまざまな支援を試みていることが、学生たちが自発的に義援金活動などに取り組んでいることを、頼もしく思っています。現在の危機的状況乗り越えるには、こうした目に見える積極的な行動とともに、目には見えない「心」や「希望」を意識する祈りも大切になります。行動するからには祈りが必要になり、祈るからこそ行動が伴うのです。本学院のスクール・モットー「地の塩、世の光」の精神と照らし合わせても、目に見える“世の光”を行動と捉えるならば、その背景にある目に見えない“地の塩”である祈りこそ、人の深い痛みを和らげるものであり、慰めであり、癒しであります。この行動と祈りとのバランスを考慮しながら復興のために活動できるのが、青山学院らしさだと考えています。

これまで誰もが当たり前だと思っていたものが、当たり前ではなくなっていました。人間は自分自身の力で地面に立っていると考えがちですが、大地が揺らいでいては、歩くことはもちろん立つことさえできません。人は大地に支えられているのだと、思い定

めた人も多くいることでしょう。復興への道のりは、間違いなく長いものとなります。すぐにできることを行う瞬間的な支援も必要ですが、ずっと継続していくことを見据えた持続性のある取り組みも大切です。決して派手ではなく、まさに地の塩とも呼べる地道でも長く続く支援こそが必要なのです。この未曾有の事態に直面した学生の皆さんは、いまこそ本学院で学びを深めてください。知を広げてください。その学びは偶然ではなく必然です。そして、自らの関心を仲間と共有してください。お互いの視野を大きく広げ、“深さ”と“広さ”を同居させた学びによって身につけた力を、ぜひ将来の社会のため、世の中のために生かしていただきたいと思います。

「危機」という文字には機会の“機”が使われます。数々の痛み、悩み、不安を伴う状況ではありますが、やはりこれをひとつの機会として、前を向いて歩き出してください。青学生の健闘を祈るとともに、神の祝福が被災者の方々と共にありますように。

院長・学長からのメッセージ

なすべきこと、できることを見極めて、

本学の取り組みについて

2011年3月11日の東日本大震災以後、本学ではさまざまな面で支援を試みています。主な活動を紹介します。

帰宅困難者の受け入れ

地震発生後、首都圏では交通網が混乱し、多くの方々が帰宅困難となりました。本学ではただちに避難場所として青山キャンパスを開放し、青山学院記念館および青山学院講堂で約8,000名を受け入れました。



東北学院大学を拠点とした支援

学長を委員長とする「緊急支援対策委員会」を設置し、建学の精神を同じくする東北学院大学と復興に向けた協力体制を確立しました。3月22日から26日にかけては緊急の救援物資を提供するとともに、本学教員による被災状況の把握を行いました。

4月4日から6日にかけては、国際政治経済学研究科の塚本俊也プロジェクト教授が中心となり、本学の学生5名と東北学院大学の学生たちが避難所や児童館を訪問しました。有志企業から提供いただいた物資を届け、子どもたちのこころのケアにあたりました。



3月11～12日

3月18日～(7月まで)

3月22～26日・4月4～6日

4月27日

被災地を覚えての祈祷会

震災から1週間となる3月18日より毎週金曜日の12時～12時25分に、青山・相模原両キャンパスにおいて開催しています。被災された方々、そのご家族、また支援活動を行っている方々のために、共に心を合わせて祈りを捧げています。学生、教職員、校友、学院関係者であればどなたでもご出席いただけます。



学生ボランティア活動のためのセミナー

今後ボランティア活動にかかわっていくという学生を主な対象として、被災者の心の支援についてのセミナーを開催しました。今後も複数回行われる予定で、第1回は「災害支援ボランティア活動とメンタルケア」をテーマに、米国カリフォルニア州認定臨床心理士のジョセフ・ポール・小沢氏をお招きし、ボランティア活動参加者の自己管理やメンタルケアが重要であることや、精神的外傷を受けた被災者とかかわる際の留意点などについて、自らの被災地支援の経験も紹介しながら、時折ユーモアも交え、学生にもわかりやすく講義していただきました。

学ぶことのできる幸せを自覚し、 社会に貢献できる“知”を身につけてください

東日本大震災による災害は、いまなお、私たちの社会生活全般に不安な影を落としています。自然の力が持つ脅威を再認識するとともに、あらためて自然と共生する大切さを考えさせられました。ある意味で、現代の社会経済のシステムそのものを見直すことが必要なのかもしれません。これからは安全で安心な社会の創造が、何よりも求められていくでしょう。

今年3月には4,545名の卒業生が本学から旅立っていきましました。彼らの社会での奮闘に心から期待します。一方で、4月には4,710名の新生を迎え入れました。いまほど「生きること」と「学ぶこと」を結びつけて考えることが、要求されているときはありません。新生を含めた在学生のみなさんには、常に安全で安心のできる社会づくりのために自分が何をできるのかを問い続けていきたいと思っています。その答えは容易に見つかるものではありませんが、だからこそ本学で大いに学んでいただきたいのです。

もちろん、学んだ内容が直接社会に届くとは限りません。しかし自分の学びをどう社会へ結びつけるかを意識することは大事で

す。そうすれば将来、社会の一員として活動するとき、自分が学んだものの意味を認識するでしょう。そのためにまずは、自分自身で深く追究したいと思える研究テーマを見つけ出してください。大学での学びは、人が生きるために必要な“知”として身につきます。そして長期的な視点で考えたとき、そうした“知”を備えた人間こそが、社会全体に貢献することができるのです。

今後は、これまで以上に社会、そして世界の“現実”に高い関心を持ち、意識的に広い視野で物事に取り組む姿勢が求められます。外国への留学で異文化を知ることも有効でしょう。クラブ・サークルなどの活動で人とのつながりを体験することも大切です。本学は、学生一人ひとりが、さまざまな視点から学べる環境を積極的に用意しています。学ぶことのできる幸せを自覚しながら、すべての人と社会とに対する責任を進んで果たす人間になれるよう、成長していただきたいと願っています。



青山学院大学 学長
伊藤 定良

前に進んでいきましょう

被災地へのボランティア参加

学生のボランティア活動の支援をする組織を作り、ボランティア情報の提供や共有、ボランティア活動の企画・参加、またボランティアに参加するにあたっての研修などを行っていきます。

また被災地支援については、前期中に希望学生を募り、ボランティアの方法・知識、現地の状況把握、公衆衛生、リスク管理等に関する学習をした上で、夏休み期間に現地派遣を予定しています。

またADRA Japan、JEN、国境なき子どもたち、Save the Children Japan等の国際NGO組織と提携し、長期的な支援を行っていく予定です。



「東日本大震災 ボランティア支援募金」の集計結果報告と御礼

3月23日から4月30日にかけて、本学学生によるボランティア活動を支援するための支援金を募集しました。ボランティアの取り組みは今後も大学ウェブサイトやAGUニュース等でお伝えしていきます。皆様のご協力に感謝するとともに、御礼申し上げます。配分額の詳細は、本学ウェブサイトでご報告いたします。
総額 2,613,670円

「東日本大震災 義援金」の集計結果報告と御礼

3月23日から4月30日にかけて、被災された方々に対する義援金を募集しました。日本赤十字社へは5月16日付で送金し、残額は被災地出身の在学生を中心に、キリスト教学校教育同盟校およびキリスト教会へ配分して送金させていただきます。皆様のご協力に感謝するとともに、御礼申し上げます。送付金・配分額の詳細は、本学ウェブサイトでご報告いたします。
総額 8,391,739円(うち日本赤十字社への指定義援金 4,109,968円)

「東日本大震災 被災学生支援給付奨学金」緊急募金のお願い

本学では被災された新生・在学生に対して、被害状況に応じて学費の減免や修学助成金の給付等の特別措置(経済支援)を講じています。この度、更なる就学継続支援を目的とした奨学金募金を臨時に募集いたします。いただいたご寄付は、「東日本大震災被災学生支援給付奨学金」として給付させていただきます。本学が学生にとって実りの学び舎となるよう、ご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

ご協力いただける場合は募金事務局へご連絡ください。資料をお送りいたします。
募金事務局(間島記念館1階) TEL.03-3409-6208 FAX.03-3409-3890



在学生と卒業生が語る

教師という「生き方」

理工学部物理・数理学科4年
橋詰 貴君

教育人間科学部教育学科 特任教授
長嶋 清



日本聾話学校教員（2010年3月文学部日本文学科卒業）
飛田 貴基さん

教育人間科学部教育学科2年
横井 萌子さん

青山学院大学の教員養成の歴史は、明治20年代における英語教員の養成にまで遡ります。現在、多くの卒業生が全国の学校で人を教え、導き、育てることで、社会への大きな貢献を実現しています。今回の特集では教師を目指して勉強中の在學生と、本学での学びを生かして教壇に立つ卒業生が、教職課程の指導を担当する特任教授による司会のもと、教師という「生き方」について、それぞれの思いを語り合います。

教師を目指すきっかけと、教師になるために必要なこと

長嶋 まずは、教師を目指すきっかけをみなさんに伺いたいと思います。

飛田 幼稚園から大学まで人生の大半を青山学院で過ごし、昨年春に卒業しました。中学・高校の国語の教員免許を取得し、現在は東京都町田市にある日本聾話学校で教えています。本校は聴覚に障害のある0歳から中学3年生までの子どもを対象とするキリスト教学校で、私の主な担当は中学1年生の国語と小学校低学年の体育のサポートです。

私は両親ともに教師であることに加えて親戚にも教師が多い環境だったため、自分も教職を目指すのはとても自然な流れでした。教師という仕事を強く意識したのは中学時代ですが、そのころは福祉やボランティアなどにも興味があり、母親に相談したところ障害のある児童・生徒の支援をする学校があることを知り、その時から特別支援学校に関心を持っていました。

橋詰 私は中学・高校の数学科の教師を目指しています。青学には教職を目指しつつ、子どものころから続けていた水泳も頑張れる環境があると思って進学しました。実は飛田さんは水泳部の先輩なので、今日は少し緊張しています(笑)。

教師を目指す理由ですが、小学生のころから算数が得意で、友だちに教えているうちに「人に教えるのは面白い」と、漠然とですが思っていました。そして中学生のとき、よくやんちゃをして担任の先生に怒られたのですが、その先生の真っ直ぐな人間性に憧れ、「自分もこんな先生になりたい」と明確に考えるよう

になりました。

横井 小学校の教師になって、人間形成の最も基礎となる時期に自分に関わりたと思っています。また、子どもたちの成長にさらに深く関わられるように、小学校の教員免許と同時に、幼稚園教諭の免許も取得するつもりです。

私は小学生のころから「小学校の先生になる」と言い続けてきました。自分が悩んでいた時にあたたかくサポートしてくれる先生たちに巡り会えたので、自分もそのようになりたいと思ってきたんです。当時、その夢を家族に話したときに、大好きだった祖母に「応援するよ」と言われたのがすごくうれしかったんです。その後、祖母は亡くなりましたが、あのときの一言が私に大きな決意を抱かせてくれました。

長嶋 では、教師を目指しているおふたりにお聞きします。教師になるために、現在頑張っていることを教えてください。

横井 大学で学ぶ内容は将来絶対に役に立つと思うので、授業の予習復習はしっかりやっています。それと図書館にある教育関係の本を出来る限りたくさん読破しようと思って読み始めたところです。また、「実践」を経験するために、「学校支援ボランティア」に積極的に参加し、実際に子どもたちと触れ合うようにしています。

長嶋 学校支援ボランティアは、学生に早い段階から教育の現場を知ってもらうために、本学と相模原市の小学校が連携して実施している取り組みですね。横井さんは何年生のクラスを担当していますか。

横井 3年生のクラスで主に授業のサポートをしています。普段の生活では小学生と交流できる機会は得られないので、このボランティア制度はとてもありがたいです。子どもと触れ合えることももちろんですが、実際に担任の先生がどのように子どもたちと接しているのかななどを間近で観察できる貴重な機会でもあります。

橋詰 私も昨年は、母校の中学校で週1回「授業見学」を経験しました。やはり現場で子どもと関わる経験は貴重です。学級活動の時間に教壇に立って話をする機会もいただきました。スイミングクラブで子どもに水泳を教えることもあります。大学時代から人前に立って子どもを指導する機会を持てることは、本当

に大きな勉強になります。後は、やはり大学の授業をしっかり受けることです。数学の本当の面白さを伝えるには、中学・高校の範囲を越えた知識が必要だと思います。

長嶋 よく教職課程の授業で学生に話すのですが、免許をとって即「実践」は教師だけです。学校によっては1年目からクラス担任を任されることもあります。そういう意味でも、大学時代に「現場」を経験しておくことが重要なのです。

飛田 教員を1年間経験した立場からも、やはり「現場は違う」と何度も感じるがありました。そして何より、実際の現場では責任ある言動が求められます。学生時代に少しでもその緊張感を味わうことのできる機会があれば、社会に出てから対処する能力は大きく変わってくると思います。

橋詰 順調に行けば私は、来年の今頃は教員になっているんですよ。現在は教員採用試験に向けた勉強がラストスパートに入っていますが、自信を持って教壇に立てるように、大学時代に吸収できることは何でも自分の力にしたいと思っています。

教師の一言が、子どもに大きな影響を与える

長嶋 飛田先生が教壇に立つうえで、とくに心がけていることは何ですか。

飛田 子どもたちに話しかける際、使う言葉の一言一句にまで気を配ることで。自分では何気なく言った言葉でも、子どもにとっては大きな影響力を持ち、悩んだり傷ついたりすることがあります。先生と児童・生徒という関係性のなかでは、発言する言葉に責任を持つことが大切なんです。とはいえ、実行することは難しく、いまま「あんなことを言う必要があったのかな」と反省することが多いですが…。

長嶋 確かにそうですね。これは教師だけでなく、どんな仕事にも言えますが、ふとした言葉



でも、相手には深い傷になるケースがあります。

橋詰 私も授業見学の現場でケンカの仲裁に入ったときに、普段から“いじめっ子”というイメージがある生徒を一方的に注意してしまったことがあります。でも後から、お互いの言い分をしっかりと聞いていないことに気づいて反省したんです。固定観念を持つ怖さとともに、自分が発する言葉の重みを本当に感じました。

横井 私もボランティア先では、小学生から「先生」と呼ばれます。すごくうれしいのですが、その反面、大きな責任を感じています。

長嶋 教師としての責任ある言動については、我々も気をつけたいですね。他にも何か授業で心がけていることはありますか。

飛田 伝えるべき意図を明確にして、子どもたちが少しでも分かりやすくなるような授業を心がけています。国語という教科は、子どもたちの受け取り次第で、いろいろな答えが出てきます。もちろん高校までの勉強では正解が定められていますが、間違った答えが返ってきたらなぜそう思ったのか、なぜ正解ではないのかをしっかりと理解させたいと思っています。とくに本校はハンディキャップを持つ子どもが対象なので、より分かりやすく伝える工夫をしています。例えば、教科書の本文を模造紙に大きく書き写して、黒板に貼り付けることもそのひとつ。本校は手話に頼らず聴覚を生かした学びを大切にしていますが、難聴の子どもには「何ページの何行目を読んで」という、自分たちが当たり前と思っている言葉が伝わらないこともあるので、一人ひとりの成長に応じた指導を心がけています。



長嶋 なるほど。しかし、この分かりやすく授業を進める工夫は、何も特別支援学校に限らず、すべての学校の授業で考えるべきテーマです。教職課程を受け持つ教員として、私も心に留めたいと思います。

こうして飛田先生も教員としてさまざまな苦労や工夫をされているわけですが、在学生の

ふたりは、教員という仕事に対しての不安はありませんか。

横井 よく報道で話題になっていますが、やはり保護者の方々とコミュニケーションの取り方については不安に感じています。

長嶋 教員は子どもだけでなく、いろいろな人とのコミュニケーションが必要とされる職業です。ただ保護者のことに限りませんが、



何か悩み事がある時はひとりで抱え込まず、校長先生や同僚の先生に迅速に相談することが大切です。私も小学校の校長を務めましたが、学校で起こる問題は個人ではなく、学校全体で考えて対処するべきだと思います。

橋詰 私は教師と生徒との距離感に難しさを感じます。お互いの距離が近い方が理想だと思いますが、特定の生徒とだけ親しくなると「ひいき」だと言われますし…。

飛田 これも難しい問題だと思います。本校の場合は、1クラス2名から7名なので、「ひいき」といった問題は少ないかもしれませんが、それでもどの子どもにもまんべんなく気配り、目配りして、不公平さがでないように心がけています。

長嶋 教師と子どもとの距離感を保つバランスは確かに難しいです。積極的に質問に来るような子どもには、自然と熱心に指導してしまいますが、他方では不公平に見られるかもしれません。ここは自分自身の教師としての信念が重要でしょう。経験を重ねることで少しずつ理解できるはずなので、必要以上に気にしなくてもいいと思いますよ。

教師の夢を実現し、理想の教師像に近づくために

長嶋 いまの教育現場は、みなさんが通っていたときと比べて違うと感じますか。

橋詰 パッと見た感じは変わらない気がしますが、ただインターネットや携帯電話が普及した影響だと思いますが、良くも悪くも子どもたちが

いろいろな知識や情報を持っていますね。間違った情報を信じて振り回されることも考えられるので、大人として、教師として、彼らの言動に意識を向け、正しく導いていく必要があると思います。

横井 私は小学3年生と接しただけなので、まだまだかわいくて、元気な子どもたちという印象が一番強いんです。でも、言いたいことを何でも言える元気な子がいる一方で、いつもおとなしくてしゃべらない子もいます。何となく性格や個性の差が激しいように感じることはあります。

飛田 個人的な意見ですが、全体的におとなしく、真面目な子どもが増えている気がします。そのため大きな問題も起こらないわけですが、果たして何も問題がないから「良いクラス」「良い学校」と呼べるのかは疑問です。教師と生徒、あるいは子ども同士など、お互いにぶつかりあってみえてくるものがあると思います。常に問題の芽を摘んで、平穏なまま済ませることが良いわけではないと思います。

橋詰 それは私も感じていたことです。「良いクラス」と「仲の良いクラス」は別だと思うんです。何も問題が起こらない良いクラスだからといって、クラスメイトの仲が良いとは言えません。お互いに無関心なだけかもしれませんから。私のこれまでの小・中・高校時代の経験から言えば、担任の先生のリーダーシップが強すぎると「良いクラス」になりがちだと思います。みんなが先生の言う通りに動いておけば良いと考えるからです。一方で、放任主義的な担任の先生のクラスの方が、生徒同士で意見合い、全体がまとまるケースが多くありました。教師の関わり方ひとつでクラスの雰囲気も変わるのかなと考えています。

横井 先程の教師の言葉がけが子どもに大きな影響を与える話とも共通しますが、先生と児童とのコミュニケーションのバランスは難しいですね。児童を良い方向へも悪い方向へも導ける、本当に大きな責任を担った職業だとあらためて実感しました。





長嶋 大学で教員免許状を取得するには卒業要件外に数多くの科目を履修し、実習もこなさなければなりません。みなさんの学生生活について教えてください。

橋詰 理工学部は授業数も多く、実験の授業では長い時間拘束されるので確かに大変です。しかし結局は本人のやる気次第ではないでしょうか。自分の場合は、例えば水泳部の朝練に参加できない場合には、当時部長だった飛田さんに自主練習をすると約束して免除してもらうなどで無事に乗り切ることができました。

横井 授業の一つひとつがすごく役に立つと思えば苦になりません。と言ってしまうとすごい優等生のように思われそうですが(笑)、でも子どもたちと実際に接していてその言動を見ていると「あ、これは以前習ったことだ」と思えることが何度もあったので、授業がとても楽しく感じられるようになりました。

飛田 大学の生活は高校までと違って自分の裁量が大きくなるので、やる気と時間の組み方次第で大きく変えることができます。私は学生時代、水泳部の他にも複数のクラブ・サークルに所属していましたが、「大変だった、忙しかった」というより、さまざまなことを経験できて「楽しかった」という思いが強いですね。

長嶋 では最後にぜひ、みなさんが理想とする教師像、あるいはこういう教員になりたいと

いう目標を聞かせてください。

横井 教師は“子どもの良さを見つけるプロ”だと思っています。子どもたち一人ひとりの個性に気づき、その良さを引き出せる教員になりたいです。実際には大変なことでしょうが、子どもはみんなできることのポイントが違うことを常に頭に入れながら、授業中だけでなく、休み時間や掃除の時間など、できる限り児童と過ごす時間を多く持ちたいと考えています。そして、子どもたちとともに、自分自身も成長していきたいです。

橋詰 一人の教師としては、自分がそうであったように、生徒から「橋詰先生のような先生になりたい」と言ってもらえる教員になることが大きな夢です。また数学の教員としては、最近では数学が苦手だったり、嫌いだったりする子どもが多いようなので、少しでも多くの子どもたちに“数学の面白さ”を伝えたいと考えています。恐らくすこし複雑な数式を見ただけで苦

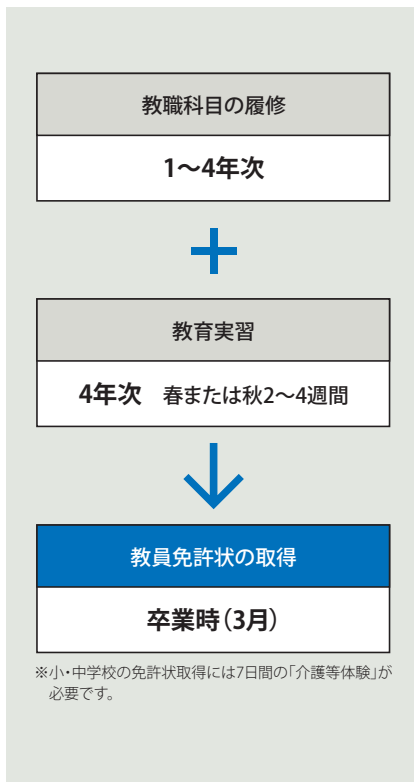


手意識を持ってしまう子どもが多いと思うのですが、その問題を解いたときの爽快感や達成感を教えたいんです。

飛田 私にも昔から理想とする教師像があります。それは今の自分に伝えられることをしっかりと伝え、子どもたちがその時習ったことを後々の人生の中で生かしてもらえそうな先生です。昔の自分を考えても、学んですぐにはその必要性にはなかなか気づけないものです。でもその後の人生で、学んだ知識が必要となる場面がきつとやってきます。そのことを信じながら、いまを大切に子どもたちと向き合いたいと考えています。

長嶋 教員という仕事は、一般的なイメージよりも地味な仕事です。自分が主役になるのではなく、教え子たちを主役にし、輝かせる役割を担います。それはある意味で青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」にも通じる営みではないでしょうか。本学を巣立ち、教壇に立つ教師の力によって、社会に貢献できる人材が数多く育っていくことが、我々にとって最大の喜びであり、誇りです。卒業生の飛田先生には、教師としてのさらなる飛躍を、また在学生のふたり、橋詰君と横井さんには教壇に立つという目標の実現を期待しています。本日はありがとうございました。

教員免許状の取得へのプロセス



2011年度教員採用試験報告 (2010年度実施)

本学は毎年数多くの教員を輩出し、社会から高い評価を得ています。今年度は、教員として131人(専任93人、非常勤38人)が全国の学校等に赴任しました。

2010年度教員免許状取得および2011年度教員採用状況

	免許状取得件数	教員採用者数						合計	
		公立学校		私立学校		計			
		専任	非常勤	専任	非常勤	専任	非常勤		
幼稚園	66	1	2	15	1	16	3	19	
小学校	100	34	9	3	1	37	10	47	
中学校	英語	76	8	3	3	3	11	6	17
	フランス語	4					0	0	0
	国語	46	5	1	2		7	1	8
	社会	32		1	1	2	1	3	4
	理科	15	1			1	1	1	2
	数学	20	2	1		1	2	2	4
高等学校	英語	82	3	1	2	2	5	3	8
	フランス語	4					0	0	0
	国語	51	3	1	3		6	1	7
	地理歴史	39	1	2			1	2	3
	公民	10				2	0	2	2
	理科	15			1	1	1	1	2
	数学	20	4	3	1		5	3	8
	商業	1					0	0	0
	工業	0					0	0	0
	情報	0					0	0	0
計	323*	62	24	31	14	93	38	131	

(注) ①免許状取得件数・教員採用者数は、2010年度学部卒業生を対象とした第一部、第二部の合計数。

2011.4.28現在

②※印を付した免許状取得件数の計は人数計。

③教員採用者数は2011年4月28日現在届け出のあった者のみ。

④中高一貫校での教員採用の場合は中学校の教員採用者数に含む。

⑤教員採用者数の専任、非常勤の区分は下記内容による。

*専任：専任教諭・専任講師 *非常勤：非常勤講師・臨時講師・期限付任用教員

2011年度一般入学試験・ 大学入試センター試験利用 入学試験結果

2011年度の大学入試は、不安定な経済事情のなか、学生の就職環境が好転しないといった社会不安の影響を受けた志願動向となりました。大学入試センター試験の平均点の上昇もあり、国公立大は人気を集めました。私立大学の全体の志願者数は横ばいで、「地元志向」「安全志向」といった傾向がみられます。学部系統別では、「文低理高」となっており、資格系学部の人気も高く、本学においても教育人間科学部、理工学部の志願者が伸びる結果となっています。

【一般入学試験】

本学の2011年度一般入学試験における志願者数は、《全学部日程》で4,714名、《個別学部日程》で34,540名の志願者を集めました。合計では、39,254名(対前年278名増)となりました。法学部では約1,000名の志願者減となり、社会情報学部では2年連続で志願者が減少、2年前からは半減しています。一方、経営学部では、約1,200名の大幅増となりました。

【大学入試センター試験利用入学試験】

大学入試センター試験利用入学試験の志願者数は《前期日程》において、昨年度と比べ全学部合計で64名の志願者減となりましたが、《後期日程》では理工学部で募集を停止したものの52名の志願者増となりました。《前期日程》と《後期日程》の志願者総数は、14,707名(対前年12名減)となりました。

2011年度の一般入学試験と大学入試センター試験利用入学試験の志願者総数は、53,961名(対前年266名増、101%)となりました。また、文学部第二部英米文学科においては、学生募集を停止いたしました。

2012年度入学試験について

2012年度は文学部に比較芸術学科を開設することが計画されています。

また、一般入学試験では、同一日程内の実施学部の組み合わせが変更となる他、2月21日に新たに試験日を設け、法・経営学部の受験機会が1回増えることとなりました。

2月7日	全学部日程
2月10日	理工A
2月11日	理工B
2月13日	文(英A・F/A・日B)・教育人間科
2月14日	文(英B・F/B・日A・史)・総合文化政策A・社会情報
2月15日	経営A
2月18日	法A・国際政治経済
2月19日	経済
2月21日	法B・経営B・総合文化政策B

大学入試センター試験利用入学試験では、経営・総合文化政策学部において、新たに4教科型を実施いたします。

一方、一般入学試験《個別学部日程》センタープラス方式、大学入試センター試験利用入学試験《後期日程》、AO入学試験については募集を停止することとなりました。広報入試センターでは、これらの情報と2011年度入学試験結果、2012年度入学試験の詳細を大学紹介パンフレット『大学案内』に掲載し、6月より全国の受験者に頒布いたします。

一般入学試験〈個別学部日程〉

学部・学科	方式	募集人員	志願者	受験者	合格者	倍率		
文学部	英米文学科	A	約150	1,336	1,263	402	3.1	
		B	約40	522	488	108	4.5	
		計	約190	1,858	1,751	510	3.4	
	フランス文学科	A	約60	551	537	163	3.3	
		B	約10	101	91	14	6.5	
		計	約70	652	628	177	3.5	
	日本文学科	A	約65	822	764	200	3.8	
		B	約10	172	157	24	6.5	
		計	約75	994	921	224	4.1	
	史学科	A	約60	722	685	※196	3.5	
		B	約10	362	340	25	13.6	
		計	約70	1,084	1,025	221	4.6	
合計		約405	4,588	4,325	1,132	3.8		
教育人間科学部	教育学科	A	約70	1,575	1,484	258	5.8	
		B	約10	439	414	25	16.6	
		計	約80	2,014	1,898	283	6.7	
	心理学科	A	約60	855	809	165	4.9	
		B	約5	163	144	14	10.3	
		計	約65	1,018	953	179	5.3	
合計		約145	3,032	2,851	462	6.2		
経済学部	経済学科	A	約185	3,927	3,353	※345	9.7	
		B	約45	820	674	90	7.5	
		計	約230	4,747	4,027	435	9.3	
	現代経済デザイン学科	A	約40	978	848	43	19.7	
		B	約20	263	226	24	9.4	
		計	約60	1,241	1,074	67	16.0	
合計		約290	5,988	5,101	502	10.2		
法学部	法学科	A	約70	710	608	203	3.0	
		セ	約160	1,506	1,249	511	2.4	
合計		約230	2,216	1,857	714	2.6		
経営学部	経営学科	A	約160	4,944	4,572	※550	8.3	
		B	約35	761	667	99	6.7	
		計	約195	5,705	5,239	649	8.1	
	マーケティング学科	A	約80	1,078	1,007	※142	7.1	
		B	約15	187	171	48	3.6	
		計	約95	1,265	1,178	190	6.2	
合計		約290	6,970	6,417	839	7.6		
国際政治経済学部	国際政治学科	A	約52	856	702	※135	5.2	
		B	約5	49	43	10	4.3	
		計	約57	905	745	145	5.1	
	国際経済学科	A	約40	612	528	※85	6.2	
		B	約5	95	79	8	9.9	
		計	約45	707	607	93	6.5	
	国際コミュニケーション学科	A	約25	926	792	※83	9.5	
		B	約13	293	255	25	10.2	
		計	約38	1,219	1,047	108	9.7	
	合計		約140	2,831	2,399	346	6.9	
	総合文化政策学部	総合文化政策学科	A	約100	1,974	1,930	※251	7.7
			B	約30	424	375	66	5.7
合計		約130	2,398	2,305	317	7.3		
理工学部	物理・数学科	A	約30	713	687	※184	3.7	
		B	約25	270	254	96	2.6	
		セ	約5	30	26	10	2.6	
		計	約60	1,013	967	290	3.3	
	化学・生命科学科	A	約30	792	740	205	3.6	
		B	約25	308	289	82	3.5	
		セ	約5	39	33	13	2.5	
		計	約60	1,139	1,062	300	3.5	
	電気電子工学科	A	約32	616	587	※197	3.0	
		B	約20	321	305	※95	3.2	
		計	約52	937	892	292	3.1	
	機械創造工学科	A	約35	529	510	※145	3.5	
		B	約18	201	186	※72	2.6	
		セ	約4	42	38	20	1.9	
		計	約57	772	734	237	3.1	
	経営システム工学科	A	約30	366	341	※121	2.8	
		B	約23	250	220	※108	2.0	
		計	約53	616	561	229	2.4	
情報テクノロジー学科	A	約30	443	417	※101	4.1		
	B	約25	306	284	※87	3.3		
	セ	約5	38	32	9	3.6		
	計	約60	787	733	197	3.7		
合計		約342	5,264	4,949	1,545	3.2		
社会情報学部	社会情報学科	A	約80	1,082	1,043	※195	5.3	
		B	約25	171	165	36	4.6	
合計		約105	1,253	1,208	231	5.2		
総計		約2,077	34,540	31,412	6,088	5.2		

セ：センタープラス方式
倍率＝受験者／合格者
合格者に※印がある場合、補欠を含みます。

一般入学試験〈全学部日程〉

学部・学科	方式募集人員	志願者	受験者	合格者	倍率	
文学部	英米文学科	15	252	245	44	5.6
	フランス文学科	10	236	230	38	6.1
	日本文学科	7	117	112	18	6.2
	史学科	10	147	141	50	2.8
	合計	42	752	728	150	4.9
教育学部	教育学科	15	554	537	48	11.2
	心理学科	5	174	168	23	7.3
合計	20	728	705	71	9.9	
経済学部	経済学科	30	480	462	111	4.2
	現代経済デザイン学科	10	284	276	35	7.9
	合計	40	764	738	146	5.1
法学部	法学科	30	384	371	125	3.0
経営学部	経営学科	30	398	379	76	5.0
	マーケティング学科	15	194	190	38	5.0
	合計	45	592	569	114	5.0
国際政治経済学部	国際政治学科	5	108	106	16	6.6
	国際経済学科	5	61	61	10	6.1
	国際コミュニケーション学科	5	169	163	14	11.6
合計	15	338	330	40	8.3	
政策文化学部	総合文化政策学科	20	509	494	85	5.8
理学部	物理・数学科	15	76	73	28	2.6
	化学・生命科学科	15	83	76	17	4.5
	電気電子工学科	5	63	57	13	4.4
	機械創造工学科	10	58	55	15	3.7
	経営システム工学科	10	62	55	11	5.0
	情報テクノロジー学科	15	80	73	15	4.9
	合計	70	422	389	99	3.9
社会学部	社会情報学科	A 15	174	169	27	6.3
		B 5	51	49	17	2.9
	合計	20	225	218	44	5.0
総合計	302	4,714	4,542	874	5.2	

倍率=受験者/合格者

大学入試センター試験利用入学試験〈後期日程〉

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	倍率	
法学部	5	57	51	26	2.0	
経営学部	経営学科	3	85	82	13	6.3
	マーケティング学科	2	55	54	8	6.8
合計	5	140	136	21	6.5	
国際政治経済学部	国際政治学科	5	54	54	23	2.3
	国際経済学科	5	60	59	21	2.8
	国際コミュニケーション学科	3	38	36	11	3.3
合計	13	152	149	55	2.7	
社会学部	社会情報学科	3	61	60	12	5.0
総合計	26	410	396	114	3.5	

倍率=受験者/合格者

2011年度 都道府県別志願者・合格者

都道府県名	一般入学試験		大学入試センター試験利用入学試験			
	志願者	合格者	志願者	合格者		
北海道・東北	北海道	483	60	305	52	
	青森	86	18	76	13	
	岩手	93	9	73	8	
	宮城	246	37	111	11	
	秋田	89	17	61	12	
	山形	91	18	71	18	
	福島	315	49	149	26	
	小計	1,403	208	846	140	
	茨城	1,157	205	539	94	
	栃木	559	129	298	48	
関東	群馬	577	101	280	46	
	埼玉	3,542	589	1,035	162	
	千葉	2,847	433	979	132	
	東京	11,960	2,123	3,906	664	
	神奈川	9,165	1,794	2,705	439	
	小計	29,807	5,374	9,742	1,585	
	新潟	476	78	281	52	
中部	富山	190	34	136	31	
	石川	158	31	70	20	
	福井	56	14	71	20	
	山梨	273	55	128	31	
	長野	595	94	313	59	
	岐阜	244	38	113	18	
	静岡	992	205	474	92	
	愛知	885	158	427	82	
	三重	167	28	91	22	
	小計	4,036	735	2,104	427	
	近畿	滋賀	62	11	25	0
		京都	146	19	59	12
		大阪	387	63	146	25
兵庫		323	42	127	21	
奈良		61	14	27	5	
和歌山		51	3	26	5	
小計		1,030	152	410	68	
中国	鳥取	70	10	43	12	
	島根	34	3	21	3	
	岡山	117	19	90	19	
	広島	412	66	182	43	
	山口	138	22	94	15	
小計	771	120	430	92		
四国	徳島	63	18	47	16	
	香川	113	20	73	30	
	愛媛	123	21	90	22	
	高知	90	16	61	16	
	小計	389	75	271	84	
九州・沖縄	福岡	616	108	276	69	
	佐賀	89	14	40	6	
	長崎	90	18	81	25	
	熊本	175	26	83	13	
	大分	92	21	76	24	
	宮崎	59	6	55	15	
	鹿児島	115	20	96	30	
	沖縄	64	5	54	8	
	小計	1,300	218	761	190	
	高等学校卒業程度認定試験他	422	56	134	13	
外国他	96	24	9	0		
合計	39,254	6,962	14,707	2,599		

大学入試センター試験利用入学試験〈前期日程〉

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	倍率		
文学部	英米文学科	5	619	617	70	8.8	
	フランス文学科	10	462	462	105	4.4	
	日本文学科	5	403	402	69	5.8	
	史学科	5	603	602	50	12.0	
	合計	25	2,087	2,083	294	7.1	
教育学部	教育学科	10	1,652	1,649	190	8.7	
	心理学科	5	606	604	45	13.4	
合計	15	2,258	2,253	235	9.6		
経済学部	経済学科	10	655	552	241	2.3	
	現代経済デザイン学科	2教科型	5	306	297	87	3.4
		3教科型	5	451	417	66	6.3
		4教科型	10	393	389	108	3.6
	計	20	1,150	1,103	261	4.2	
合計	30	1,805	1,655	502	3.3		
法学部	法学科	3教科型	10	728	724	114	6.4
		4教科型	10	273	268	99	2.7
	合計	20	1,001	992	213	4.7	
経営学部	経営学科	7	537	535	62	8.6	
	マーケティング学科	3	207	206	25	8.2	
合計	10	744	741	87	8.5		
国際政治経済学部	国際政治学科	3教科型	13	657	654	71	9.2
		4教科型	5	137	137	34	4.0
	計	18	794	791	105	7.5	
	国際経済学科	2教科型	10	297	296	63	4.7
		3教科型	10	438	437	58	7.5
4教科型		10	220	219	72	3.0	
計	30	955	952	193	4.9		
国際コミュニケーション学科	9	559	559	52	10.8		
合計	57	2,308	2,302	350	6.6		
政策文化学部	総合文化政策学科	10	759	756	100	7.6	
理学部	物理・数学科	10	467	450	126	3.6	
	化学・生命科学科	10	435	429	74	5.8	
	電気電子工学科	8	451	448	91	4.9	
	機械創造工学科	10	383	381	105	3.6	
	経営システム工学科	10	366	365	94	3.9	
	情報テクノロジー学科	10	288	285	64	4.5	
	合計	58	2,390	2,358	554	4.3	
社会学部	社会情報学科	15	945	944	150	6.3	
総合計	240	14,297	14,084	2,485	5.7		

倍率=受験者/合格者

キリスト教音楽に込められた“バッハの思い”に触れられるひととき バッハ・コレギウム・ジャパン レクチャーコンサート



学院宗教部長
(国際政治経済学部教授)
嶋田 順好

2003年から「キリスト教理解関連科目」の特別講座として実施している「バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)」によるレクチャーコンサートを今年も開催します。BCJは、バッハを中心としたバロック時代の演奏において世界的に知られる鈴木雅明氏が1990年に結成した超一流のバロックオーケストラ・合唱団です。古楽器を用いてバッハが生きた時代そのままの音楽を忠実に再現し、世界の音楽界で大きな賞をいくつも受賞しています。この世界最高峰の演奏にライブで触れられることは、非常に貴重な機会なのです。

特別講座という位置付けであることから、“レクチャー”コンサートを名乗っていることも大きな特色です。バッハは後半生にドイツのライプツィヒで数多くの教会カンタータ(オーケストラを伴う合唱・独唱・重唱などの複数楽章で構成される礼拝のための声楽曲)を作曲していますが、本コンサートではカンタータを演奏する前に、鈴木氏がその曲に込められたバッハの思いや意図を分かりやすく解説してください。曲の背景を理解してすぐにその曲が、しかも一流の生演奏で奏でられるため、聴く者は曲のストーリーが自然と頭のなかに

浮かんでくるのです。

現代はインターネットや携帯用音楽プレーヤーの進化によって、手軽に音楽を楽しめるようになりました。その反面、本物の音楽に触れる機会が極端に少なくなっているように思います。本学に通う学生たちも、特にクラシックや宗教音楽への関心を持っている人は多くないのに加え、興味があってもCDやMP3などのデジタル音源で聴くだけのバーチャルな世界で完結していることが多いのです。実際に音楽ホールへ足を運び、オーケストラの生演奏を聴く機会はほとんどないでしょう。そんな時代に、学生たちに「本物の音に触れてもらいたい」「キリスト教音楽の魅力を伝えたい」との思いから企画したのが、このレクチャーコンサートです。

大学からの文化発信が社会的責任の1つとして求められるなかで、キリスト教信仰に基づく大学である本学としては、キリスト教の音楽文化を広く伝えることも大きな使命です。レクチャーコンサートを学生だけではなく、一般の方々にも公開し、毎年楽しんでいただいているのもそのためです。バッハ音楽の美しさに魅了されている方、キリスト教音楽に関心のある方はもちろんのこと、バッハやキリスト教音楽に詳しくない方であっても、鈴木氏のレクチャーとBCJの演奏によって大きな感銘を受けられるはず。このような真の意味で

の贅沢な時間を一人でも多くの方々と共有したいと思っておりますので、コンサート当日は、ぜひガウチャー記念礼拝堂にお集まりいただければ幸いです。



2011年6月16日(木) 18:30開演 ガウチャー記念礼拝堂

- ◆開 場 18:00(18:30開演)
- ◆会 場 ガウチャー記念礼拝堂
- ◆料 金 2,500円(一般の方) 300名限定
- ◆チケット販売
☆イープラス(<http://eplus.jp>)
☆バッハ・コレギウム・ジャパン

TEL.03-3226-5333(代)平日10時～18時

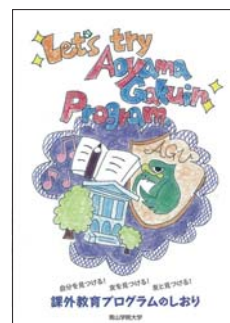
※学生・教職員は無料です。詳細は学内ポータルサイトをご覧ください。

「課外教育プログラムのしおり」を配布中

本誌第56号で課外活動の一部を紹介しましたが、その他にも本学では各事務組織等が中心となって、学生の皆さんがいろいろな学びを体験できるように多様な課外活動・教育プログラムを提供しています。この度、それらのプログラムをまとめて紹介する「課外教育プログラムのしおり」を制作しました。

各部署で実施しているプログラムを「キリスト教教育」「ボランティア」「スキルアップ」「フィールドワーク」「大学運営サポート」「地域コミュニケーション」の6つのカテゴリーに分類して紹介しています。

4月のオリエンテーション時に配布しましたが、受け取っていない方は学生部学生課(青山キャンパス 1号館1階)・学生支援ユニット学生生活グループ(相模原キャンパス B棟1階スチューデントセンター)に置いてありますので、このような機会を活用して有意義な学生生活を送ってください。



2011年度 大学執行部、学部長・研究科長紹介



学長
伊藤 定良
■専門分野：ドイツ近代史、西洋近代史
■任 期：2007年12月～2011年12月



副学長
岡田 昌志
■専門分野：熱工学
■任 期：2009年12月～2011年12月



副学長
長谷川 信
■専門分野：日本経営史
■任 期：2009年12月～2011年12月



副学長
土山 實男
■専門分野：国際政治学、安全保障
■任 期：2009年12月～2011年12月



文学部長・文学研究科長
西澤 文昭
■専門分野：フランス中世文学、語学
■任 期：2010年4月～2012年3月



総合文化政策学部長・総合文化政策学研究科長
杉浦 勢之
■専門分野：日本経済史(近代日本財政金融史)
■任 期：2010年4月～2012年3月



教育人間科学部長・教育人間科学研究科長
酒井 豊
■専門分野：日本教育史
■任 期：2011年4月～2013年3月



理工学部長・理工学研究科長
林 洋一
■専門分野：パワーエレクトロニクス
■任 期：2010年4月～2012年3月



経済学部長・経済学研究科長
米澤 義衛
■専門分野：国際経済学、ビジネス経済学
■任 期：2010年4月～2012年3月



社会情報学部長・社会情報学研究科長
榎積 宏誠
■専門分野：情報理論、人工知能、機械学習
■任 期：2010年4月～2012年3月



法学部長・法学研究科長
菊池 純一
■専門分野：知的財産法、技術追跡評価、知財クリニック
■任 期：2010年4月～2012年3月



国際マネジメント研究科長
高橋 文郎
■専門分野：企業財務論、証券投資論
■任 期：2011年4月～2013年3月



経営学部長・経営学研究科長
田中 正郎
■専門分野：流通マーケティング
■任 期：2011年4月～2013年3月



法務研究科長
山崎 敏彦
■専門分野：民事法学
■任 期：2010年4月～2012年3月



国際政治経済学部長・国際政治経済学研究科長
仙波 憲一
■専門分野：理論経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学
■任 期：2010年4月～2012年3月



会計プロフェッション研究科長
八田 進二
■専門分野：会計監査論
■任 期：2011年4月～2013年3月

2010年度 卒業礼拝を開催

2010年度の学位授与式(卒業式)は震災の影響で中止となりましたが、3月26日(土)に行われた学位記配付には多くの卒業生が訪れ互いの卒業を祝うと同時に、卒業礼拝には約530名もの学生・教職員が出席しました。

高砂民宣大学宗教主任・経営学部准教授の祈禱と、第二次世界大戦末期から戦後にかけて青山学院で学び、台湾基督長老教会の総幹事を20年近く務められた高俊明氏による卒業生へのメッセージの一部を紹介しします。



大学宗教主任
(経営学部准教授)
高砂 民宣

神様、今日、多くの個性豊かな学生たちが愛する学び舎を巣立とうとしています。それぞれのキャンパスで過ごした日々、懐かしい思い出の数々が今、走馬燈のように、卒業生たちの頭の中を駆け巡っていることと思います。そして美しいキャンパスを誇るこの青山学院で、かけがえのない青春の日々を、素晴らしい大学生活を送ることができたことを感謝していることと思います。どうかこの青山学院が、卒業後も一人ひとりにとって、心の拠り所であり続けますように。

また無事に卒業することができたその陰には、保護者の方々をはじめとして本当に多くの方々の祈りと支えがあったことと思います。今、本学を卒業するにあたり、その一人ひとりに感謝をもって接することができますように。

ここにいる卒業生たちは、これから様々な出来事に直面します。本学のスクール・モットーである「地の塩、世の光」として、日本のため、そして世界のために豊かな活躍をすることができるよう導いてください。どうかすべての人々の上に神様の祝福と御守りが、限りなく豊かに注がれますように。



台湾基督長老教会
元総幹事
高俊明

説教「全人類に光を」

私は、卒業式にはグラデュエーション(graduation)ではなく、「始まり」の意味を併せ持つコンメンスト(commencement)という言葉を用いています。卒業は学問の終わりではなく、始まりです。「地の塩、世の光」として、新しい人生と使命に向き合い、前進し始める時であるのです。この記念すべき時に、3つの「光」について考えたいと思います。

第1が信仰の光です。寄り辺を得ることによって、私たちは人間らしい人間になることができるのです。聖書にはこう書いてあります。若者も弱って疲れ、力強い人もいつかは倒れてしまう。しかし主に望みをおく人は新たな力を得るのだ、と。彼らは走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ(イザヤ書40:30-31)。正しい信仰を持つことは確かに力となるのです。

第2は希望の光です。私たち一人ひとりが他の人々に希望を与えられるよう、努力しなければなりません。かつての戦争の時、日本は荒野となり、多くの人が亡くなりました。しかしその苦しみから日本人は立ち上がり、以前よりも立派な町を、国を作ろうと勇敢に前進を始めたのです。そのような力が日本の皆さんには与えられています。今多くの人が絶望に打ちひしがれていますが、希望をもって前進し、そしてその希望を人々に与えることができるようになりますように。

第3が愛の光です。愛は最も大切な美德の一つです。明治時代の社会思想家、内村鑑三は次のような言葉を遺しました。

I for Japan, 自分は日本のため

Japan for the World, 日本は世界のため

the World for Christ, 世界はキリストのため

And all for God. そしてすべては神のため

「私は日本のため、日本は世界のため」—このような愛をもって「地の塩、世の光」として前進を続けましょう。

2010年度 学生表彰

この表彰は、学生が在学中に学業および学友会活動以外の多様な分野において人の範となる活躍または業績をあげ、その行為が本人および青山学院大学の榮譽となるものについて、広く内外に顕彰することを目的としています。2010年度は以下の15名が受賞しました。

2010年度学生表彰 受賞者 ※学年は2010年度のものです。

●第7回神奈川県産学チャレンジプログラム 最優秀賞(第1位)

理工学研究科理工学専攻
マネジメントテクノロジーコース博士前期課程1年 辻野 幹実
理工学研究科理工学専攻
マネジメントテクノロジーコース博士前期課程1年 酒井 大樹
理工学研究科理工学専攻
マネジメントテクノロジーコース博士前期課程1年 徐 若安

社会情報学部 社会情報学科3年 佐藤 沙織
社会情報学部 社会情報学科3年 大野 えみ

表彰理由：このプログラムは、神奈川経済同友会が問題解決能力の高い人材を育成することを目的に実施している課題解決型研究コンペで、企業が実際に抱える経営課題に対し、学生チームが実践的な解決策をレポートとプレゼンテーションで提示し、競い合うものである。多くの大学が参加する中、上記の結果を達成することができた。

●第36回全日本ライフセービング選手権大会ボードレース 優勝

総合文化政策学部 総合文化政策学科3年 森山 瞳

表彰理由：高校までの水泳経験を活かしてライフセービングの愛好会を立ち上げ、練習環境も十分でない中、懸命に練習を重ねてきた成果として上記の結果を達成することができた。

●2010全日本フリースタイルスキー選手権(デュアルモールド) 優勝

経営学部 経営学科 2010年3月卒業 水谷 夏女

表彰理由：国際スキー連盟(FIS)で規定されるナショナルチャンピオンシップにあたる大会であり、この成果を受けて現在ナショナルチームメンバーとしてソチオリンピックに向けて、活躍中である。

●人命救助

法学部 法学科4年 加藤 惇也

表彰理由：通学途中において心肺停止状態に陥った男性に対し、課外教育プログラムで修得した技術を活用してCPR(心肺蘇生法)を試み、適切な応急処置を行った結果、男性を救助することができた。

●第18回日本山岳耐久レース(24時間以内)「長谷川恒男cup」 女子20代第5位 女子総合52位

理工学部 化学・生命科学科2年 難波 夏季

表彰理由：奥多摩主要峰全山を縦走する国内最高峰のトレイルランニングレースで、昨年度に引き続き優秀な成績を収めた。またおなじく東京都山岳連盟の主催で行われる「第2回ハセツネ30K大会」においても、32Km女子20代で「第3位」(4時間16分17秒)という成果を残している。

●技術士第一次試験 合格

理工学部 機械創造工学科2年 荒川 拓公

表彰理由：「技術士」は、科学技術に関する高度な知識と応用能力が認められ、科学技術の応用面に携わる技術者に与えられる国家資格である。第一次試験では大学卒業程度の知識が問われるため、3学年後期から卒業後に試験を受験することが通例であり、一次試験に2学年の学生が合格したことは本学ではほとんど例がない。

●平成22年度公認会計士試験 合格

経営学部 経営学科3年 新井 康悦

経営学部 経営学科4年 奥津 晶奈

文学部 史学科4年 宮尾 遼

表彰理由：国家試験の中でも最難関の一つ(2010年度合格率7.6%)といわれている公認会計士試験に、学部在学中に合格した。大学において日常の学業を修めつつ、受験勉強を続けること、そして在学中に結果を出すことは極めて困難である。

●クリケット日本代表

総合文化政策学部 総合文化政策学科3年 上柿 史彦

理工学部 機械創造工学科4年 砂岡 歩季

表彰理由：代表選手は過去の実績及び選考会に基づいて選考された。上柿君は2009年に引き続きの選出で、サモアで行われた2009Pepsi ICC EAP Mens Cricket Trophyで4試合に出場し、20得点している。

2010年度 体育会優秀団体・選手表彰



2010年度は、男子バスケットボール部の4冠達成、陸上競技部(長距離部門)の箱根駅伝連続シード権獲得、硬式野球部、サッカー部、ラグビー部、男子ラクロス部のリーグ1部昇格など、団体競技の華々しい戦績が目立ちました。また、バドミントン、居合道、空手道、パワーリフティングなど、基本的に「個」で競う競技での活躍が顕著だったことも大きな特色です。その他にも幅広い種目で素晴らしい成績が見られ、本学体育会のレベルアップを実現しました。来年度のさらなる飛躍のためにも、各競技・大会時に選手への応援・声援をぜひともお願いいたします。

(体育会会長 仙波 憲一 国際政治経済学部長)

2010年度体育会表彰団体・選手 ※学年は2010年度のものです。

【最優秀団体】
バスケットボール部(男子) 第59回関東大学バスケットボール選手権大会優勝
第50回関東大学バスケットボール新人戦優勝
第59回関東大学バスケットボールリーグ戦優勝
第66回全日本学生バスケットボール選手権大会優勝
第62回全日本学生バスケットボール選手権大会優勝
第61回全日本大学バドミントン選手権大会優勝

【最優秀選手】
橋本 竜馬 経済学部4年
バドミントン部(女子)
バスケットボール部(男子) 第33回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会日本代表
第59回関東大学バスケットボール選手権大会最優秀選手賞
第62回全日本学生バスケットボール選手権大会最優秀選手賞
バスケットボール部(男子) 第86回関東大学バスケットボールリーグ戦最優秀選手賞
陸上競技部(短距離部門) 第89回関東学生陸上競技対校選手権大会女子1部400m優勝
2010日本学生陸上競技個人選手権大会女子400m優勝
Swiss meeting女子400m優勝
Grand Prix Ustinad Labem女子400m優勝
第7回ワイルドゲームス女子400m優勝
秩父宮賜杯第50回実業団・学生対抗陸上競技大会第5位

【優秀団体】
居合道部 第43回東日本学生居合道大会優勝
第25回全日本学生居合道大会第3位
第54回全日本学生空手道選手権大会(形)部準優勝
第21回全日本学生空手道選手権大会(2人形の部)優勝
第87回東京箱根間往復大学駅伝競走大会総合9位(2年連続シード権獲得)
第89回関東学生陸上競技対校選手権大会女子4×400mリレー準優勝
女子4×100mリレー優勝
女子4×400mリレー準優勝

【優秀選手】
大木 貴博 経済学部2年
井口 知彦 理工学部4年
小池 翔太 文学部4年
黒崎 嘉斗 理工学部2年
工藤 耕沙 国際政治経済学部2年
皆川 玲奈 総合文化政策学部1年
小林 里乃 文学部4年
空手道部 第38回関東学生空手道選手権大会男子形の部優勝
第54回全日本学生空手道選手権大会 兼東西対抗戦男子形の部ベスト8
航空部 パワリフティング第5回世界大学野球選手権大会出場
自動車部 第58回全日本学生自動車運転競技選手権大会男子乗用の部優勝
自動車部 第58回全日本学生自動車運転競技選手権大会女子貨物の部優勝
自動車部 第58回全日本学生自動車運転競技選手権大会女子乗用の部準優勝
馬術部 第37回東京都馬術大会(第22競技学生賞典馬術課FIEヤングライダープレミナリテ2009)準優勝
第46回全日本学生馬術女子選手権大会第7位
第48回関東馬術女子競技会女子障害優勝
バスケットボール部(男子) 第26回学生電鉄杯10大学バスケットボールフェスティバル最優秀選手賞
第50回関東大学バスケットボール新人戦新人王得点王
第13回関東実業団・関東大学バスケットボールオールスター対抗戦関東学生選抜代表バスケットボール部(男子) 第33回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会日本代表
バスケットボール部(男子) 第33回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会日本代表
バスケットボール部(男子) 第33回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会日本代表
バスケットボール部(男子) 第33回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会日本代表
バスケットボール部(男子) 第14回日本学生選抜バスケットボール大会最優秀選手賞
バドミントン部(女子) 第61回全日本学生バドミントン選手権大会シングルス第3位
第64回全日本学生総合バドミントン選手権大会シングルス本戦出場
パワーリフティング部 第2回世界ジュニア&ジュニア男子女子ベンチプレス選手権大会110kg級出場
第89回関東学生パワーリフティング選手権大会100kg超級優勝
パワーリフティング部 文部科学大臣杯争奪第37回全日本学生パワーリフティング選手権大会75kg級準優勝
第29回全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会75kg級第3位
パワーリフティング部 文部科学大臣杯争奪第37回全日本学生パワーリフティング選手権大会82.5kg級準優勝
第29回全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会82.5kg級第3位
パワーリフティング部 第89回関東学生パワーリフティング選手権大会52kg級優勝
陸上競技部(中長距離部門) 第87回東京箱根間往復大学駅伝競走大会2区第4位
陸上競技部(中長距離部門) 第87回東京箱根間往復大学駅伝競走大会6区第5位
第89回関東学生陸上競技対校選手権大会女子2部3000m障害優勝
陸上競技部(中長距離部門) 第87回東京箱根間往復大学駅伝競走大会9区第4位
陸上競技部(中長距離部門) 第14回アジアジュニア選手権大会第3位
陸上競技部(短距離部門) 第89回関東学生陸上競技対校選手権大会男子2部110mH優勝
2010日本学生陸上競技個人選手権大会男子110mH第4位
第65回国民体育大会陸上競技会成年男子110mH準優勝
陸上競技部(短距離部門) 第26回日本ジュニア陸上競技選手権大会女子100mH優勝
天皇賜杯第79回全日本学生陸上競技対校選手権大会女子100mH第3位

永吉 佑也 総合文化政策学部1年
辻 直人 経営学部3年
比江島 慎 文学部2年
中川 真雄 国際政治経済学部3年
宇田川 一馬 経営学部4年
本岡 ちさと 経済学部4年
田代 一将 法学部4年
吉川 友樹 理工学部3年
森 友秀 文学部2年
宮原 航太 経済学部3年
出岐 雄大 社会情報学部2年
小川 恭正 国際政治経済学部4年
小林 剛寛 社会情報学部3年
竹内 一輝 文学部1年
佐藤 志太 理工学部2年
上田 美鈴 経済学部2年
青木 成樹 文学部1年

菊池 峻 総合文化政策学部1年
赤嶺 希 経営学部2年
【敢闘団体】
アイススケート部(フィギュア部門) 第4回東日本学生フィギュアスケート選手権大会女子クラス優勝・男子Cクラス第3位
第83回日本学生氷上競技選手権大会女子クラス準優勝・男子Cクラス第3位
第50回全日本学生クライダー競技選手権記念大会第9位
第14回原田第一杯 優勝
関東大学テニスリーグ戦(7部中3部)優勝
(10年ぶり)入替戦東海大学 5-4 勝利2部昇格
関東女子大学対抗テニスリーグ戦準優勝Cブロックへ昇格
東都大学野球春季II部リーグ戦優勝
入替戦 対立正大学2勝1敗1部昇格
第84回関東大学サッカーリーグ戦2部準優勝1部昇格
創部85周年記念アウトライアー登山隊「ネパールヒマラヤ遠征」
アウトライアー東峰7,035mに挑み6,700mまで登頂
第61回全日本学生バドミントン選手権大会ベスト8
関東学生ハンドボール春季リーグ戦(7部中2部)準優勝
関東学生フラインギング男子サークル 3部優勝
入替戦対立教大 45-33 2部昇格
関東大学対抗戦Bグループ 優勝
ABグループ入替戦対立教大22-19Aグループ昇格
第23回関東学生ラクロスリーグ戦2部Bブロック優勝
入替戦対立教大10-1 1部昇格

レスリング部 JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアレスリング選手権大会96kg級準優勝
第4回東日本学生フィギュアスケート選手権大会女子クラス優勝・男子Cクラス第3位
第83回日本学生氷上競技選手権大会女子クラス準優勝・男子Cクラス第3位
第50回全日本学生クライダー競技選手権記念大会第9位
第14回原田第一杯 優勝
関東大学テニスリーグ戦(7部中3部)優勝
(10年ぶり)入替戦東海大学 5-4 勝利2部昇格
関東女子大学対抗テニスリーグ戦準優勝Cブロックへ昇格
東都大学野球春季II部リーグ戦優勝
入替戦 対立正大学2勝1敗1部昇格
第84回関東大学サッカーリーグ戦2部準優勝1部昇格
創部85周年記念アウトライアー登山隊「ネパールヒマラヤ遠征」
アウトライアー東峰7,035mに挑み6,700mまで登頂
第61回全日本学生バドミントン選手権大会ベスト8
関東学生ハンドボール春季リーグ戦(7部中2部)準優勝
関東学生フラインギング男子サークル 3部優勝
入替戦対立教大 45-33 2部昇格
関東大学対抗戦Bグループ 優勝
ABグループ入替戦対立教大22-19Aグループ昇格
第23回関東学生ラクロスリーグ戦2部Bブロック優勝
入替戦対立教大10-1 1部昇格

【敢闘選手】
宮川 哲弥 法学部3年
高橋 美澄 国際政治経済学部3年
小野田 賢 文学部4年
政野 寛明 文学部3年
福島 由登 経営学部2年
下水 流 郎 経済学部4年
武田 英二郎 国際政治経済学部4年
村杉 聡史 文学部4年
山上 悠紀 総合文化政策学部2年
福井 真紀子 文学部4年
岩井 健介 経営学部2年
呉松 麻里奈 経営学部4年
小林 優美 経済学部1年
小野寺 佑紀 文学部2年
坂井 航 法学部2年
溝口 俊平 国際政治経済学部4年
中原 唯衣 経営学部4年
神田 織恵 社会情報学部1年
塚本 治樹 経営学部2年
海部 夏子 社会情報学部3年
一柳 周太 文学部4年
高橋 聡 法学部2年
前田 隆 経営学部2年
滝口 雅 経営学部3年
高橋 大祐 理工学部4年
福田 健太 社会情報学部3年

【奨励選手】
玉光 弘和 経済学部2年
原谷 美芽 社会情報学部2年
降旗 有沙 文学部2年
砂原 由侑 教育人間科学部1年
田中 優美 経営学部1年
伊東 若葉 経済学部1年
窪田 公輝 文学部1年
鈴木 一成 経営学部1年
鈴木 優人 教育人間科学部1年
秦 雄太郎 理工学部2年
大丁 佑太 文学部2年
鷹羽 直子 国際政治経済学部1年
居合道部 第42回東日本学生居合道新人戦優勝
硬式庭球部(女子) 平成21年度関東学生新進テニス選手権大会ダブルス準優勝
硬式庭球部(女子) 平成21年度関東学生新進テニス選手権大会ダブルス準優勝
ソフトテニス部(女子) 平成22年度関東学生ソフトテニス新進大会第3位
平成22年度東都シングルス選手権第3位
パワーリフティング部 第90回関東学生パワーリフティング選手権大会82.5kg級第3位・新人の部優勝
レスリング部 東日本学生春季新人戦(グロコローマン)55kg級優勝
陸上競技部(中長距離部門) 第89回関東学生陸上競技対校選手権大会男子2部1500m第3位
ラクロス部(男子) 2010年度関東男子ユース関東代表
ラクロス部(男子) 2010年度関東男子ユース関東代表
ラクロス部(女子) フレッシュマンキャンプゴールドフレッシュマン強化指定練習会強化指定選手

Aogaku Lecture ①

青年文化論

— 青年期・学生文化・大学の変容と現在 —



杉谷 祐美子
教育人間科学部教育学科 准教授

今号の誌上公開講座から、本学の各学部学科および大学院で開講されている特色ある授業をピックアップして紹介していきます。今回は、教育人間科学部の杉谷祐美子准教授による「青年文化論」を取りあげました。

大学生のみなさんにとって、将来何をしたいか、どのような職業に就きたいか、自分は何に向いているのかと考えることはいまや避けて通れない課題ではないでしょうか。もちろん、入学以前から将来の目標を明確にしている人もいますが、自分のやりたいことをみつけたり、自分の可能性を広げたいと思って大学に進学する人は少なくありません。

人間の発達過程において、青年期に達成すべき課題はアイデンティティの確立だといわれます。しかし、自分とはどのような人間か、自分はどのようになりたいのかを比較的自由に考えられるようになったのは、近代以降の話です。しかも、社会階層を問わず、一般の青年層がこうした青年期の課題を広く享受できるようになったのは20世紀に入ってからのこと。生まれながらに身分や職業が決まっていた時代には考えられないことだったわけです。したがって、「青年期」は社会経済の発展や教育機会の拡大に伴って生み出され、延長されてきたものとみることができます。

一定期間、労働を猶予され、将来の準備のために勉強に専念することが許される時代になったというのは大変恵まれたことでもあり、同時に、悩ましいことでもあるかもしれません。社会の高度化・複雑化は職業選択肢の幅を一層広げ、ライフスタイルを多様にし、自分に適した道を選びとるためには自分自身と向き合うことを余儀なくされるようになりました。

この授業では、こうした青年期の只中にある大学生のみなさんと一緒に、戦後日本社会における学生集団が固有にもつ文化(意識、価値観、行動なども含みます)とそこからうかがえる学生像、そして、大学と学生との関係性について、その変容をたどっていきます。日本では戦後約60年間で、10人に1人が大学・短大に

進学する時代から2人に1人が進学する時代へと大きく移り変わりました。もはや、大学への進学は特別なことではなく、当たり前とすら思われるようになってきました。

このように、大学に進学することの意味づけが変化してきたことは、大学生の生活や志向性にも影響を及ぼしています。授業では、映像、学生調査、新聞記事などを用いて、およそ10年刻みに各時期の大学生の姿を紹介します。旧制高校を中心に広がった哲学書を愛好する教養主義やパンカラな寮生活、戦後復興期にみる苦学生の実態や当時の娯楽、暴力行為も辞さず大学や社会に対して異議申し立てをした大学紛争、政治や社会への関心が薄れモラトリアムに安住したがる風潮、学生が消費の主体となりレジャーランド化する大学、就職氷河期を背景に授業にまじめに出席する一方で受身な態度にとどまる学生など、その姿は様々です。

授業では、過去の学生と対峙するばかりではありません。学生のみなさんがそれらの学生像を相対化してとらえつつ、さらに、勉強、サークル、アルバイト、就職、交友関係など多様な観点から、現代の学生と大学を読み解いていき

ます。いつの時代も、「最近の若者は…」と、若者はしばしば批判の対象にされてきました。しかし、既存の社会とは異なる新たな価値観の担い手が若者であったことも見逃せません。現代の学生も、「遊んでいる」、「打ち込むものがない」などと否定的な側面が強調されがちかもしれませんが、キャリアとの関係において絶えず「自分の生き方」を問われる悩み多き存在であり、いざというときにはボランティア活動などで力を発揮する頼もしい存在でもあると思われます。学生のみなさんには、過去の学生像に現在との共通点を見出したり、違和感を覚えたり、今の学生像を再解釈したりなど、ディスカッションやコメント・ペーパーなどを活用して、率直な生の声を寄せてもらいます。こうした振り返りを通して、この授業が「大学生」である自分自身と日常生活の場である「大学」の存在を見つめ直し、自らにとっての大学の意味と今後の自分のあり方について考える契機になればと願っています。

※2008年度以前の入学者には「発達文化論」として開講しています。



2011年度ペアレンツウィークエンドのお知らせ

青山学院大学では、大学後援会事業の一環として保護者のみなさまとの連絡を密にし、ご子女に関する相談や本学に対するご意見等をうかがい、それらを大学運営に反映させる目的をもって、懇談会を開催しています。今年度の開催日程は下表のとおりです。対象となる保護者の方には、改めてご案内いたします。



より多くの保護者のみなさまの参加をお待ちしております。

首都圏ペアレンツウィークエンド(全学部)

対象学部	開催日	開催キャンパス
全学部1年生	6月25日(土)	相模原

首都圏ペアレンツウィークエンド(学部別)

対象学部	開催日	開催キャンパス
経済学部・経済学部第二部	6月4日(土)	青 山
総合文化政策学部		
法学部	6月11日(土)	青 山
経営学部・経営学部第二部		
社会情報学部	6月11日(土)	相模原
文学部・文学部第二部	6月18日(土)	青 山
教育人間科学部		
国際政治経済学部		
理工学部		
理工学部	7月2日(土)	相模原

地区ペアレンツウィークエンド

地 区	開催都市	開催日	会 場
青 森 県	青 森	7月10日(日)	青森国際ホテル
栃 木 県	宇 都 宮	7月10日(日)	宇都宮東武ホテルグランデ
山 梨 県	甲 府 府	7月10日(日)	常盤ホテル
徳 島 県	徳 島 松	7月16日(土)	ホテルクレメント徳島
香 川 県	高 松	7月17日(日)	全日空ホテルクレメント高松
兵 庫 県	神 戸	7月17日(日)	ANAクラウンプラザホテル神戸
宮 城 県	仙 台	7月23日(土)	ホテルメトロポリタン仙台
福 岡 県	福 岡	7月23日(土)	ソラリア西鉄ホテル
沖 縄 県	沖 縄	7月30日(土)	バジフィックホテル沖縄
愛 知 県	名 古 屋	7月31日(日)	キャッスルプラザ
宮 崎 県	宮 崎	8月6日(土)	ホテルスカイタワー
群 馬 県	高 崎	8月7日(日)	ホテルメトロポリタン高崎
鳥 取 県	米 子	8月20日(土)	米子全日空ホテル
岡 山 県	岡 山	8月20日(土)	ホテルグランヴィア岡山
山 口 県	山 口	8月21日(日)	ホテルサンルート徳山
富 山 県	富 山	8月27日(土)	ホテルニューオータニ高岡
静 岡 県	静 岡	8月27日(土)	ホテルアソシア静岡
熊 本 県	熊 本	8月27日(土)	熊本全日空ホテルニュースカイ
北 海 道	函 館	9月3日(土)	ロワジールホテル函館
北 海 道	札 幌	9月4日(日)	ニューオータニ札幌

開催時間●10:30~15:00(会場によって時間が異なる場合があります)
対象:全都道府県在住、全学年の保護者の方。お住まいの近くの会場に限らず、どの会場にご出席いただいても結構です。

問い合わせ先: 庶務部庶務課 ペアレンツウィークエンド 担当
TEL. 03-3409-8568
<http://www.aoyama.ac.jp/target/parents/>

2011年度前期の授業期間について

(専門職大学院を除く)

既に学生ポータル等でお知らせしているとおり、2011年度前期の授業は7月9日を最終日といたします。

夏季の電力不足が予測されているなかで、節電の社会的要請に応える措置でありますことに、ご理解とご協力をお願いいたします。本学としても、青山・相模原両キャンパスの節電計画を立て、協力していく所存です。

なお、不足する授業日数分の学修内容を確保し、成績評価を行うための補講、課題・レポート、平常試験等がありますので、学生の皆さんは授業時の指示および学生ポータルを随時確認してください。

総合研究所 研究成果発表状況

研究活動を終了したプロジェクトから研究成果として、市販本や報告論集が以下のとおり刊行されました。

2010年度研究成果

研究部	研究プロジェクト	研究成果
課 題 別	青山文化の総合的研究	市販本 『青山文化研究 —その歴史とクリエイティブな魅力— (宣伝会議)2,100円
キリスト教文化	大学におけるキリスト教教育 —その歴史・現状・展望—	市販本 『キリスト教大学の使命と課題 —青山学院の原点と21世紀に おける新たな挑戦— (教文館)1,680円
人 文 科 学	国家の歴史的形成と文学 および言語の動態的研究	市販本 『国家と言語—前近代の東アジアと 西欧— (弘文堂)3,360円
自 然 科 学	強磁性を示す電荷移動錯体の 複素誘電率スペクトロスコピー	報告論集
自 然 科 学	超臨界ガス降着現象と 銀河・ブラックホールの進化	報告論集
自 然 科 学	イリジウム錯体触媒を用いる 環境調和型有機合成反応の開発	報告論集
創立20周年記念 特別研究プロジェクト	戦争記憶の検証と平和概念の 再構築	市販本 『戦争記憶の継承 —語りなす現場から— (社会評論社)3,360円
創立20周年記念 特別研究プロジェクト	科学技術の発展と心的機能から 探る安全と危険のメカニズムに関 する総合研究	市販本 『安全と危険のメカニズム』 (新曜社)2,520円
特別研究 プロジェクト	Aoyama & Asia e-Learning Network (A2EN)	市販本 『国際言語環境の認識と対応 実践編』 (アールコミュニケーションズ)1,890円

Club & Circle Information

問い合わせ先
学生部学生課
TEL.03-3409-7835

学生団体の活動予定は、今後変更になる可能性があります。

主要活動予定(2011年6月~7月)

居合道部 第43回東日本居合道新人戦(6月) 第18回東京都女子居合道大会(7月)
空手道部 第55回全日本学生空手道選手権大会(7月)
弓道部 第41回全関東学生弓道選手権大会(6月)
拳法部 全国大学選抜選手権大会(6月) 東日本学生個人選手権(6月)
ゴルフ部 関東学生ゴルフ選手権予選会(6月)
サッカー部 JR東日本カップ2011第85回関東大学サッカーリーグ戦(前期)(6月)
自動車部 全関東学生ダートトライアル選手権大会(7月)
射撃部 東日本学生ライフル選手権大会(6月)
水泳部 第25回夏季関東学生公認記録会(7月)
ソフトテニス部 東都大学ソフトテニス選手権大会(6月) 東日本学生選手権大会(6月)
卓球部 関東学生卓球選手権大会(6月) 全日本学生卓球選手権大会(7月)
チアリーディング部 第13回関東チアリーディング選手権大会(6月)
軟式野球部 春季リーグ戦(6月)
馬術部 第81回関東学生馬術争覇戦(6月) 第46回関東学生馬術三大大会(6月)

バドミントン部 関東学生バドミントン選手権大会(6月)
バレーボール部 東日本大学バレーボール選手権大会(6月)
パワーリフティング部 全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会(6月)
フェンシング部 剛毅杯(6月)
ボクシング部 関東大学ボクシングリーグ戦(6月)
ヨット部 関東学生ヨット個人選手権(6月)
陸上競技部(短距離ブロック) 2011日本学生陸上競技個人選手権大会(6月)
第95回日本陸上競技選手権大会(6月)
レスリング部 東日本学生春季新人戦(6月)
青山フォークウェイズ 春季定例コンサート(6月)
アナウンス研究会 ジョイント・モニター・フェスティバル(6月)
E.S.S. 大木杯スピーチコンテスト(7月)
ギターアンサンブル 関東学生ギター連盟定期演奏会(6月)
競技ダンス部 東部日本学生競技ダンス選手権大会・皇月杯争奪学生競技ダンス選手権大会・
全日本学生選抜競技ダンス選手権大会(7月)
写真研究会 写真展(6月)
箏・尺八研究会 関東学生三曲連盟定期演奏会(6月)
ロイヤルサウンズジャズオーケストラ トライアングルコンサート(7月)

主要活動報告(2011年3月)

航空部 第51回全日本学生グライダー選手権 団体6位 個人5位(3月)

教育課程移行の延期についての説明会 開催報告

既に文書・学生ポータル等でお知らせしておりますとおり、本学では2012年度に予定していた教育課程の移行を2013年度に延期することとしました。この度、保証人・学生の皆さまを対象とした説明会を実施しましたので報告いたします。

保証人対象

4月16日(土) 14:00～ 青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂
 4月23日(土) 14:00～ 青山キャンパス 9号館910教室
 4月30日(土) 14:00～ 青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂

在学生対象

4月15日(金) 12:35～ 相模原キャンパス B737会議室
 14:45～ 相模原キャンパス ウェスレー・チャペル
 4月18日(月) 12:35～ 相模原キャンパス ウェスレー・チャペル
 14:45～ 相模原キャンパス ウェスレー・チャペル

説明会でいただいたご意見・ご要望につきましては今後も真摯に検討させていただくとともに、専用相談窓口の開設や中間報告会の実施等につきまして随時お知らせいたします。

2011年度 進学相談会開催日程

青山学院大学では、本学受験を希望する受験生に情報を提供し、本学への理解を深めていただくため、全国各地で開催される進学相談会に参加しています。開催日程は以下のとおりです。

6月		7/9(土)		神戸	
6/10(金)	函館	ベルクラシック函館	7/10(日)	京都	みやこメッセ
6/11(土)	札幌	アスティ45	7/12(火)	大阪	インテックス大阪
6/20(月)	秋田	ホテルメトロポリタン秋田	7/3(日)	広島	基町クレド
6/21(火)	盛岡	ホテルメトロポリタン盛岡	7/2(土)	福岡	エルガーラ
6/26(日)	仙台	TIC	7/7(木)	那覇	パシフィックホテル沖縄
6/11(土)	横浜	横浜新都市ホール	7/8(金)	那覇	パシフィックホテル沖縄
6/12(日)	千葉	京葉銀行文化プラザ	9月		
6/12(日)	秋葉原	秋葉原ダイビル	9/23(金祝)	札幌	アスティ45
6/19(日)	立川	立川グランドホテル	9/25(日)	横浜	パシフィック横浜
6/11(土)	名古屋	名古屋デザインホール	9/13(火)	富山	オクスカナルパークホテル富山
6/18(土)	大阪	梅田センタービル(クリスタルホール)	9/14(水)	金沢	金沢駅もてなしドーム
6/10(金)	米子	米子全日空ホテル	9/24(土)	静岡	パルシェ
6/11(土)	松江	くにびきメッセ	9/12(月)	徳島	ホテルクレメント徳島
7月		7/9(土)		高松	
7/8(金)	郡山	郡山ビューホテルアネックス	9/13(火)	高知	全日空ホテルクレメント高松
7/9(土)	福島	エスパル福島	9/21(木)	高知	高知市文化プラザ「かるぼーと」
7/9(土)	池袋	サンシャインシティ 文化会館	9/22(木)	松山	愛媛県県民文化会館
7/12(火)	新宿	NSビル	9/28(水)	宮崎	MRT micc
7/16(土)	有明	東京ビッグサイト	10月		
7/31(日)	横浜	パシフィック横浜	10/22(土)	池袋	サンシャインシティ 文化会館
7/7(木)	新潟	ANAクラウンプラザホテル新潟	※開催日、会場等は変更になる場合がありますので、広報入試センターにお問い合わせください。		
7/16(土)	名古屋	名古屋国際会議場	※進学相談会の全日程は本学ウェブサイトでご覧いただけます。		

進路指導担当者向け大学説明会のお知らせ

高等学校の進路指導担当教員を対象とした大学説明会を下記のとおり開催いたします。2012年度の入試情報や本学のカリキュラム、新設の文学部比較芸術学科等について最新の情報をお伝えします。

6月3日(金) 青山キャンパス
 6月7日(火) さいたま会場(大宮)
 6月14日(火) 千葉会場(千葉)
 6月21日(火) 相模原キャンパス

なおご参加いただくには事前の申し込みが必要となります。広報入試センターより各高等学校へ送付いたしましたご案内をご確認いただけますよう、よろしくお願いいたします。

2011年度 オープンキャンパスについて

本誌第56号(3月発行)でオープンキャンパスの開催日程を掲載しましたが、夏季の消費電力削減のため日程・開催内容等を変更する可能性があります。詳細は今後本学ウェブサイトにてお知らせします。

広報入試センター-広報課：TEL.03-3409-8626

Club&Circle 7 体育会 居合道部

仲間の結束力が自慢。今年は全国制覇を目指します!

日本の伝統武術「居合道」を通じて、心身ともに自らを鍛えあげることが目標です。日々の稽古では、素振りや体さばきの基礎練習から始め、技の稽古、試合形式の演武会などを行っています。東日本学生居合道大会において2009年度、2010年度と連続で団体優勝を果たし、2010年には全日本学生居合道大会でも団体戦第3位の結果を残しました。

目標は高く掲げていますが厳しいだけでなく、稽古中とそれ以外のメリハリを大切にしています。とくに先輩と後輩の関係をしっかり持ちながらも、垣根なく楽しく接することができるのが居合道部の特色。大学4年間で後輩指導や部の運営など学年に応じた役割を団体に所属して経験することは、卒業後も必ず役立つと思います。

部活動の最大の意義は、先輩・同期・後輩との「連携」を学べることです。仲間のなかで自分は何ができるのか、どのような役回りなのかを理解し、できる限りの役割を果たす。それが仲間同士の結束を固め、信頼感を生み出し、大会の結果にもつながります。今年度はさらに目標を高く掲げ、東日本大会3連覇と全国大会優勝を目指します。

(主将：経済学部経済学科3年 玉光 弘和)



青山祭での演武公開



練習場にて

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2011青山学院大学

- AGUニュースのバックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
 - AGUニュースを確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。
- 事務取扱窓口 青山キャンパス→学生部厚生課
 相模原キャンパス→学生部学生生活グループ



発行元：青山学院 本部広報部
 TEL.03-3409-6578

●2011年5月24日発行●